

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅看取り患者の遺族に行った終末期ケアの満足度調査
演者名	胡 曉華 ^{1,2)} 、古賀 秀信 ³⁾ 、金城 謙太郎 ^{1,2)} 、大杉 泰弘 ^{1,2)} 、本田 宜久 ¹⁾
所属	潁田病院 家庭医療センター 1) 飯塚病院 総合診療科 2) 飯塚病院 医学研究推進本部 3)

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

在宅医療の終末期において家族による介護は重要であると同時に、医療従事者が家族に満足する支援を提供することが家族の疲弊を防ぎ、よりよい終末期ケアに繋がると考えられる。今までに在宅医療終末期ケアを受ける家族介護者の満足度に影響する因子の同定についての報告はほばない。在宅終末期ケアを推進するには、影響因子を明確にすることが必要不可欠と考え、在宅終末期ケアを受けた家族介護者の満足度調査を行った。

方法

2011 年 7 月から 2014 年 8 月までに個人宅で看取りした 85 人の患者家族を対象に、終末期ケアに関わる各因子および満足度調査を、アンケートを郵送する方法で行った。調査対象となる家族の満足度に影響する因子については、在宅医療に携る 7 人の医師にインタビューし、15 個の予想される因子より計 7 つの因子を採用した。家族満足度を加えた上で多肢選択アンケートを作成し、患者家族に同意を得てから郵送した。返信されたアンケート結果を多変量解析し、満足度および各因子の関連を検討した。

結果

59/85 件が返送された。家族の満足度中間値は 9.2/10 であった。約半数の家族は提供された医療サポートに対する満足度は 10/10、最低の満足度は 7/10 であった。家族の満足度に関連する因子を重回帰分析を行った結果、主治医への満足 ($p<0.05$)、緊急時対応および電話対応が満足度に影響する因子である可能性が示唆された。訪問診療の滞在時間、頻度、家族の介護経験、社会的支援は家族の満足度に関与しなかった。

考察

在宅終末期医療において、医師に対する満足度が介護する患者家族の満足度に最も有意に影響することが判明した。医療従事者の緊急時対応と電話時対応も家族にとって、満足度に影響する因子と考えられたが、有意差は認めなかった。在宅医療を受ける患者家族の満足度をさらに向上するためには、主治医への満足度の改善が必要であり、家族の満足度に繋がる因子をさらに調査する必要があると考えられた。